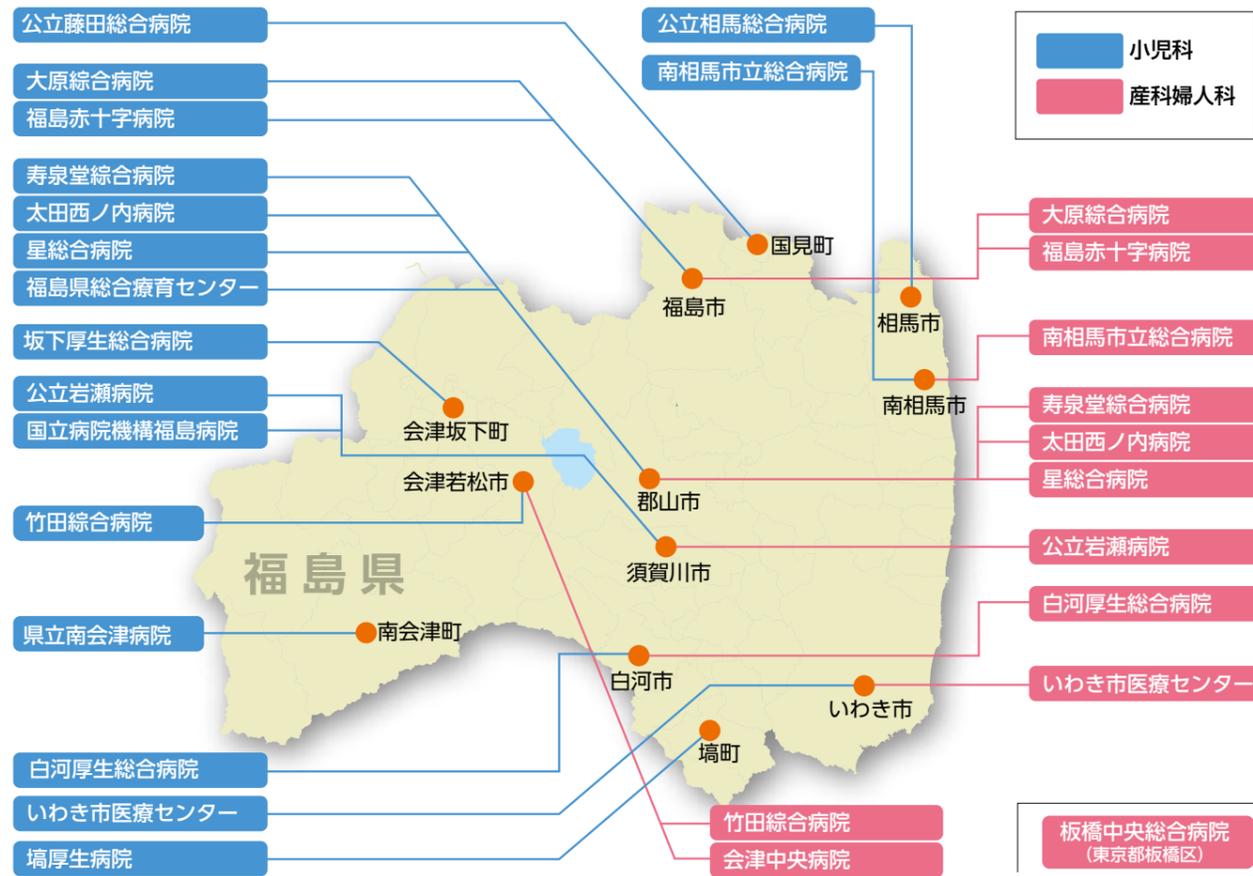


後期研修協力病院



ふくしま いのちと未来のメディカルセンター棟



ふくしま 子ども・女性医療支援センター

福島の女性が安心して子どもを産み、育み、健康な一生を過ごせることをめざして

福島県の産婦人科・小児科医療の向上を 一緒に目指しませんか

ふくしま子ども・女性医療支援センターでは以下の人材を求めています

- 1 福島県に貢献できる産婦人科または小児科医で、
専攻医の臨床指導や研究指導が可能な医師
- 2 産婦人科専門医取得後の医師で、福島県の産婦人科医療の発展に
興味を持つ医師あるいは臨床研究に興味を持つ医師
- 3 産婦人科専門医取得後の医師で、
福島県で産婦人科診療と臨床研究を行いながら、
自らのキャリアアップを目指す医師

猪苗代湖と磐梯山 [猪苗代町]



安心して子どもを産み、 育てられる福島県へ

福島県は、慢性的な医師不足や医師の偏在を解消するために、福島県立医科大学内に福島県地域医療支援センターを設置し、県内への医師定着を促進する事業を展開してまいりました。

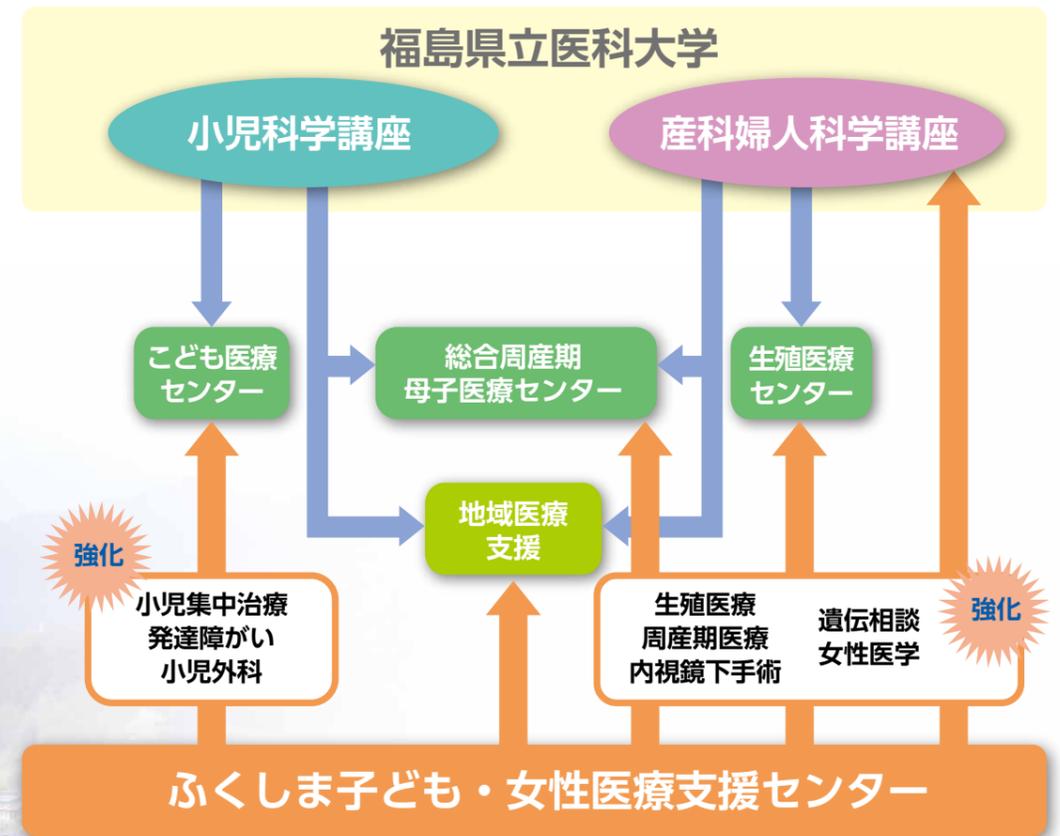
しかしながら、本県の医療事情、とりわけ周産期医療は依然として厳しい状況下に置かれています。

このような状況を打破するため、県の委託を受け、平成28年4月、福島県立医科大学に「ふくしま子ども・女性医療支援センター」が開設されました。

ふくしま子ども・女性医療支援センターは、「福島県に住む女性が安心して子どもを産み、育み、そして健康な一生を過ごすための医療支援を行う」ことを目的に設立された、全国的にも例のない only one の施設です。

小児科医、産婦人科医のエキスパートが県内医療機関の小児科・産婦人科の医療支援を行うとともに、妊娠の前段階から妊娠、出産、子どもの成長、女性の生涯にわたる健康を一貫して支え、子どもと女性の医療に携わる医師の養成を支援していきます。

福島県の小児科医療・産婦人科医療への センターの関わり



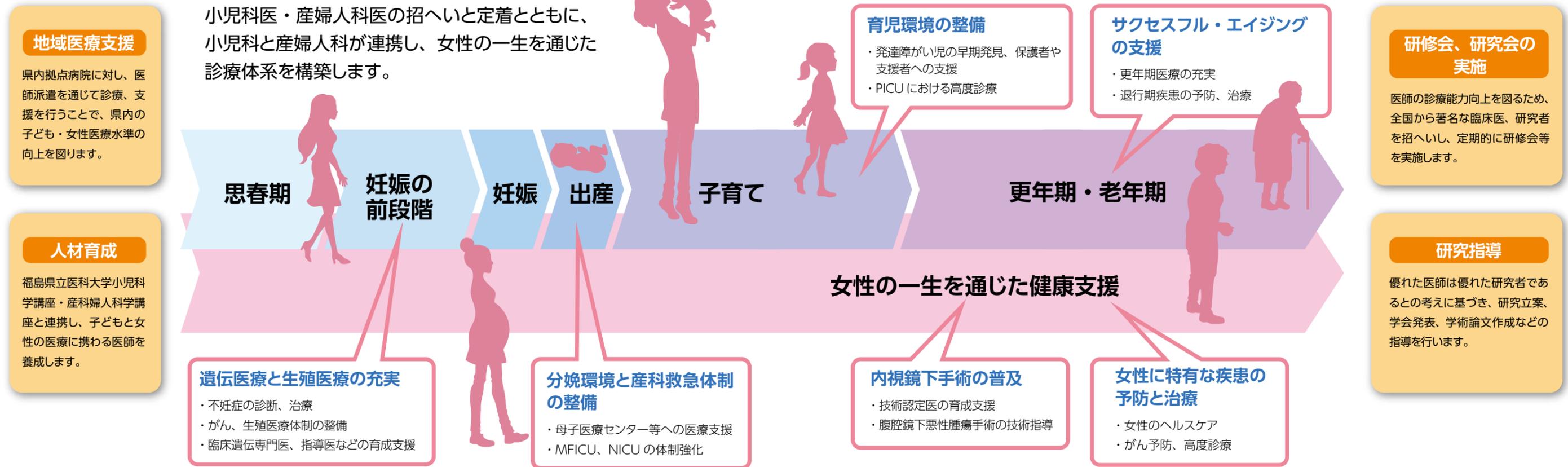
従来、福島県の小児科医療、産婦人科医療は福島県立医科大学小児科学講座、産科婦人科学講座が中心となって推進されてきました。それぞれの講座は、附属病院の中央診療部門であるこども医療センター、総合周産期母子医療センター、生殖医療センターに人材を派遣し、また、県内の主要病院に教室員の派遣を行い福島県の県内の小児科医療、産婦人科医療を守りその向上に貢献してきました。

ふくしま子ども・女性医療支援センター（以下センター）はこれらの講座と密接な連携を図り、小児科部門では小児集中治療室の充実化や小児発達障がい児の早期発見や家族教育、さらには行政を巻き込んだ支援システムの構築などの支援を行っています。令和2年度からは小児外科医も加わりました。

一方、産婦人科部門では周産期医療、生殖医療、内視鏡下手術、女性医学、遺伝相談などの分野での医療支援に加え、学生教育や専門医の論文指導などでも支援の範囲を広げています。

花見山【福島市】
写真家の故秋山庄太郎氏が「福島に桃源郷あり」と称した花の名所。マンサク、レンギョウ、ハナモモ、ウメなど四季折々の花が咲き誇り、サクラの頃には山全体がほんのりとピンク色に染まります。

福島県に住む女性が健康な一生を過ごすための医療支援をしながら、安心して子どもを産み、育てる環境をつくりま



センターが取り組んでいる主な事業

全国からの著名な小児科医・産婦人科医師のリクルート

県内の若手産婦人科医師の臨床指導、研究指導

産婦人科専攻医の県内基幹病院への招へい

助産師外来の設立・強化 ～福島モデル創設を目指して～

発達障がい児の早期発見・介入に関するシステムづくりへの参加

その他 最新の医療技術の導入など

県内基幹病院産婦人科への専攻医受入れをアシストしています

私は昨年10月から白河厚生総合病院の産婦人科に専攻医として勤務しています。産婦人科医は私を含めて4名で、3名の産婦人科専門医の御指導の下、多くの症例について学ばせて頂いております。例えば、腹腔鏡下子宮全摘術を数例執刀しました。手術のように手技に関しては1回の執刀で多くのことを学べます。また外来診療も行っており術後など気になる患者さんのその後を自分でフォローしています。

産婦人科の特徴は分娩管理です。分娩は施設の規模や体制によって治療方針が変わります。いろいろな施設で研修を行うことで、その施設にあった管理方法を学ぶことができます。携わった分娩で元気な赤ちゃんが生まれる瞬間は、何回経験しても嬉しいですね。

産婦人科は忙しく急変もあり大変なイメージがあるかもしれませんが、そのため、特にスタッフのフットワークが軽く、助け合っている科であると思います。それは、医局が違って感じます。

はじめは知り合いが全くいない中での研修で不安もありましたが、白河厚生総合病院の先生方も、福島県立医大の先生方も同じ医局のメンバーのように接し、指導して頂き毎日楽しく過ごしています。

聞くとところによると、福島県の研修病院は、お産から婦人科の疾患に至るまで、多くの症例に遭遇することができ、研修を受けるにはピッタリの病院が数多く存在するそうです。

ほかにもまだまだ魅力はありますが、福島での研修に興味がある方はぜひ見学にいらしてください。

中尾 紗由美

昭和大学産婦人科
専攻医2年次



令和元年10月より
白河厚生総合病院で研修

センタースーパーバイザーおよび教員



■専門分野
生殖医学、周産期医学、生命倫理
■研究テーマ・成果
生殖生理学、再生医学、生殖内分泌、発生生物学
■主な学会活動
2007年 日本産科婦人科学会理事長（2011年まで）
2010年 日本生殖医学会理事長（2014年まで）
2011年 日本産科婦人科内視鏡学会理事長（2015年まで）
その他数多くの学会理事歴
■主な社会活動
2013年 一般社団法人吉村やすのり生命（いのち）の環境研究所代表理事
2013年 内閣官房参与（少子化対策・子育て支援担当）

吉村 泰典
福島県立医科大学副学長
ふくしま子ども・女性医療支援センター
スーパーバイザー
(非常勤)



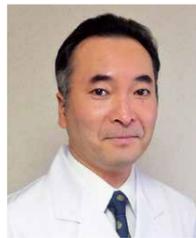
■専門分野
生殖医療、生殖内分泌学、婦人科内視鏡下手術
■研究テーマ・成果
不妊症の診断・治療
卵子の老化に関する研究
多嚕胎性卵巣症候群の診断・治療に関する研究
小児・AYA世代がんサバイバーのヘルスケア
■主な学会活動
日本生殖医学会代議員
日本受精着床学会理事
日本卵子学会理事

高橋 俊文
副センター長
(常勤)



横山 浩之
教授
(常勤)

■専門分野
小児神経学
■研究テーマ・成果
子どもの行動異常（発達障害、精神障害）とそれに関わる教育・保健・福祉との連携



西郡 秀和
教授
(常勤)

■専門分野
周産期医学、遺伝カウンセリング
■研究テーマ・成果
周産期環境と子どもの神経発達に関する研究、周産期メンタルヘルスに関する研究



神保 正利
特任教授
(常勤)

■専門分野
周産期医学
■研究テーマ・成果
県外の大学産婦人科との連携システムの構築、災害時における産科医療の教育システムの開発



太田 邦明
講師
(常勤)

■専門分野
生殖内分泌（生殖医学・女性医学）、生殖外科
■研究テーマ・成果
福島県内における放射線被曝と生殖アウトカムに関する疫学的研究、がん治療後患者への人工卵巣の開発と移植技術の確立



南洋 輔
助手
(常勤)

■専門分野
小児外科一般
■研究テーマ・成果
再生医療、新生児外科学



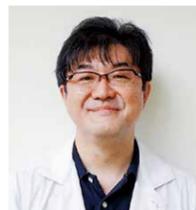
福島 明宗 特任教授
(非常勤)

■専門分野
臨床遺伝学、周産期医学
■現勤務先
岩手医科大学医学部
臨床遺伝学



清水 直樹 特任教授
(非常勤)

■専門分野
小児科学、救急医学、集中治療医学、蘇生科学
■現勤務先
聖マリアンナ医科大学小児科学



福井 淳史 特任教授
(非常勤)

■専門分野
生殖医学・生殖免疫学・生殖外科・内視鏡手術
■現勤務先
兵庫医科大学産科婦人科



鈴木 大輔 特任講師
(非常勤)

■専門分野
周産期救急、婦人科内視鏡下手術
■現勤務先
太田西ノ内病院
産婦人科



磯部 真倫 特任講師
(非常勤)

■専門分野
婦人科内視鏡下手術、婦人科腫瘍、医学教育
■現勤務先
新潟大学医学部総合病院
産科婦人科



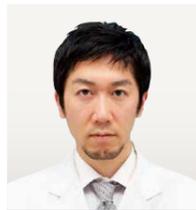
新津 健裕 特任講師
(非常勤)

■専門分野
集中治療医学、小児科学、Critical Care Outreach
■現勤務先
埼玉県立小児医療センター
集中治療科



齋藤 修 特任講師
(非常勤)

■専門分野
集中治療医学、麻酔科学、小児科学
■現勤務先
東京都立小児総合医療センター
集中治療科



荻原 重俊 特任助教
(非常勤)

■専門分野
集中治療医学、麻酔科学、小児科学
■現勤務先
手稲区仁会病院
小児科/小児集中治療科



秋山 類 特任助教
(非常勤)

■専門分野
集中治療医学、麻酔科学、小児科学
■現勤務先
東京都立小児総合医療センター
集中治療科

センター教員の日常

高橋副センター長

生殖医療センターで不妊外来、産婦人科で新患外来を担当しています。福島県で生殖内分泌領域の臨床、研究と一緒にやってくれる仲間を募集です。ふくしまからはじめよう生殖医療。

西郡教授

子どもの健やかな発達とより良い周産期環境づくりに向けて、周産期医学と臨床遺伝を中心に教育・研究と啓発を積極的に行っています。ふくしまはアットホームで魅力がいっぱいです。本センターの特性を生かして、さらに活動の幅を広げていきます。

太田講師

本邦初の顕微受精を成功させた“伝統ある”福島県立医科大学生殖医療チームのメンバーに加わることができました。これまでの伝統の継承と新たな伝統の構築を目指して研究活動もしております。大都会で疲れた“あなた”、研究生生活を充実させたい“あなた”、復興支援をしたい“あなた”、私たちの仲間になりませんか。

鈴木特任講師

腹腔鏡手術を得意としています。産科救急のシミュレーションコースでインストラクターとして活動しています。産婦人科の救急疾患についての学生講義も行っています。

磯部特任講師

婦人科腹腔鏡手術を専門とし、福島県立医大で腹腔鏡下悪性腫瘍手術の立ち上げをお手伝いしております。医学教育も得意であり、学生教育やリクルートなどでもお役にたてればと思います。

南助手

新生児から思春期のお子さんの外科疾患を診療しています。先天性疾患以外にも外傷や固形悪性腫瘍、臓器移植では多くの診療科とともに治療を行います。福島県の小児・周産期医療の発展に尽力していきます。

横山教授

発達障害や行動異常がある子どもの早期発見・介入のシステム作りがミッションです。学生教育はもちろん、地域の基幹病院での診療を地域の先生方に見学していただいています。また、行政や教育、小児保健との連携を模索しています。

神保特任教授

産婦人科では週1日産科外来を担当しています。また、分娩シミュレーターや胎児ファントムを使った超音波検査による学生講義を行っています。その他、県内医療機関において外来や当直支援を行っています。

福島特任教授

産婦人科臨床実習講義において、出生前診断を含めた「臨床遺伝学」の講義を行なっています。また産婦人科遺伝外来において新型出生前診断(NIPT)に関わる遺伝カウンセリングを担当しています。

小児特定集中治療室 (PICU)

県内初のPICUとして平成29年から稼働開始、平成30年から6床運用・年間200例入室のペースで活性化しています。救命救急センター・特定集中治療室・学内診療各科と協力し、充実した設備で診療しています。重篤小児緊急ヘリ搬送も実施され、PICU医師派遣等も検討しています。新たな領域である小児集中治療の魅力を生徒・研修医に伝えつつ、小児医療の県内全土での質的向上と、小児集中治療の学問としての確立を目指しています。